



ポリシーを使用したスマート ライセンシングの設定

この章では、トポロジを実装する最も簡単で迅速な方法について説明します。



(注) これらのワークフローは、新規展開のみに該当します。既存のライセンスモデルから移行する場合は、[ポリシーを使用したスマート ライセンシングへの移行](#)を参照してください。

- [CSLU を介して CSSM に接続 \(1 ページ\)](#)
- [CSSM に直接接続 \(3 ページ\)](#)
- [CSLU は CSSM から切断 \(5 ページ\)](#)
- [SSM オンプレミスを通じて CSSM に接続 \(7 ページ\)](#)
- [SSM オンプレミスは CSSM から切断 \(9 ページ\)](#)
- [CSSM への接続なし、CSLU なし \(11 ページ\)](#)

CSLU を介して CSSM に接続

コミュニケーションの製品インスタンスが開始したメソッドを実施するとき、以下のタスクを完了します。

製品インスタンス開始型通信の場合のタスク

CSLU のインストール > CSLU の環境設定 > 製品インスタンスの構成

ステップ 1 CSLU のインストール

タスクが実行される場所。[[スマート ソフトウェア マネージャ \(Smart Software Manager\)](#)] > [[スマート ライセンシング ユーティリティ \(Smart Licensing Utility\)](#)] から Windows ホスト (ラップトップ、デスクトップ、または仮想マシン (VM) ダウンロード

インストールとセットアップの詳細については、『[Cisco Smart License Utility Quick Start Setup Guide](#)』を参照セットアップください。

ステップ2 CSLU の環境設定

タスクの実行場所：CSLU

- a) シスコへのログイン (CSLU インターフェイス)
- b) スマートアカウントとバーチャルアカウントの設定 (CSLU インターフェイス)
- c) CSLU での製品開始型製品インスタンスの追加 (CSLU インターフェイス)

ステップ3 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

- a) 製品インスタンス開始型通信のネットワーク到達可能性の確認。
- b) 転送タイプが **cslu** に設定されていることを確認します。

CSLU がデフォルトの転送タイプです。別のオプションを設定した場合は、グローバル コンフィギュレーションモードで **license smart transport cslu** コマンドを入力します。構成ファイルへの変更を保存します。

```
Device(config)# license smart transport cslu
```

```
Device(config)# exit
```

```
Device# copy running-config startup-config
```

- c) CSLU の検出方法を指定します (1 つ選択)。

- オプション 1 :

操作は不要です。ネームサーバーは、**cslu-local** のゼロタッチ DNS ディスカバリ用に設定されました。

ここでは、DNS を設定してあり (ネームサーバーの IP アドレスが製品インスタンスで設定されている)、ホスト名 **cslu-local** が CSLU IP アドレスにマッピングされているエントリが DNS サーバーにある場合、それ以上のアクションは不要です。製品インスタンスは、ホスト名 **cslu-local** を自動的に検出します。

- オプション 2 :

アクションは必要ありません。ネームサーバーとドメインは、**cslu-local.<domain>** のゼロタッチ DNS ディスカバリ用に設定されました。

ここでは、DNS を設定してあり (ネームサーバーの IP アドレスとドメインが製品インスタンスで設定されている)、**cslu-local.<domain>** が CSLU IP アドレスにマッピングされているエントリが DNS サーバーにある場合、それ以上のアクションは不要です。製品インスタンスは、ホスト名 **cslu-local** を自動的に検出します。

- オプション 3 :

CSLU に特定の URL を設定します。

グローバル コンフィギュレーションモードで **license smart url**

csluhttp://<cslu_ip_or_host>:8182/cslu/v1/pi コマンドを入力します。<cslu_ip_or_host> には、CSLU をインストールした Windows ホストのホスト名や IP アドレスを入力します。8182 はポート番号であり、CSLU が使用する唯一のポート番号です。

```
Device(config)# license smart url cslu http://192.168.0.1:8182/cslu/v1/pi
Device(config)# exit
Device# copy running-config startup-config
```

結果：

製品インスタンスは通信を開始すると、ポリシーに従って、スケジュールされた時刻に最初の RUM レポートを自動的に送信します。製品インスタンスがこの情報をいつ送信するかを確認するには、特権 EXEC モードで **show license all** コマンドを入力し、出力で `Next report push:` フィールドの日付を確認します。

CSLU は、情報を CSSM に転送し、CSSM から返される ACK を製品インスタンスに転送しません。

ライセンスの使用状況が変更された場合は、[転送タイプ](#)、[URL](#)、および[レポート間隔の設定](#)を参照しレポートへの影響を確認してください。

CSSM に直接接続

コミュニケーションの製品インスタンスが開始したメソッドを実施するとき、以下のタスクを完了します。

製品インスタンス開始型通信の場合のタスク

スマートアカウントのセットアップ > 製品インスタンスの設定 > CSSM による信頼の確立

ステップ1 スマートアカウントのセットアップ

タスクが実行される場所：CSSM Web UI、[Smart Software Manager](#)

スマートアカウントと必要なバーチャルアカウントへの適切なアクセス権を持つユーザーロールがあることを確認します。

ステップ2 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

- CSSM への製品インスタンス接続の設定：[CSSM への接続の設定](#)
- 接続方法と転送タイプの設定（1つ選択）：

- オプション1：

スマート トランスポート：転送タイプを**license smart transport smart**を使用する**smart**に設定します。構成ファイルへの変更を保存します。

```
Device(config)# license smart transport smart
Device(config)# license smart url smart
https://smartreceiver.cisco.com/licservice/license
```

```
Device (config)# copy running-config startup-config
```

- オプション 2 :

HTTPS プロキシを介してスマート転送を設定します。「[HTTPS プロキシを介したスマート転送の設定](#)」を参照してください。

- オプション 3 :

直接クラウドアクセス用に Callhome サービスを構成します。「[ダイレクトクラウドアクセスに Callhome サービスの構成](#)」を参照してください。

- オプション 4 :

HTTPS プロキシを介した直接クラウドアクセス用に Call Home サービスを構成します。「[HTTP プロキシサーバの設定 \(4 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 3 CSSM との信頼の確立

タスクが実行される場所 : CSSM Web UI、次に製品インスタンス

- a) 所有するバーチャルアカウントごとに 1 つのトークンを生成します。1 つのバーチャルアカウント ([CSSM からの信頼コード用新規トークンの生成](#)) に属するすべての製品インスタンスに同じトークンを使用できます。
- b) トークンをダウンロードしたら、製品インスタンスに信頼コードをインストールできます ([信頼コードのインストール](#)) 。

結果 :

信頼を確立した後、CSSM はポリシーを返します。ポリシーは、そのバーチャルアカウントのすべての製品インスタンスに自動的にインストールされます。ポリシーは、製品インスタンスが使用状況をレポートするかどうか、およびその頻度を指定します。

より頻繁にレポートを作成するようにレポート間隔を変更する場合は、製品インスタンスで、グローバル コンフィギュレーション モードで **license smart usage interval** コマンドを設定します。シンタックスの詳細については、対応するリリースのコマンドリファレンスで **license smart (privileged EXEC)** コマンドを参照してください。

ライセンスの使用状況が変更された場合は、[転送タイプ、URL、およびレポート間隔の設定](#)を参照しレポートへの影響を確認してください。

HTTP プロキシ サーバの設定

HTTP プロキシサーバからの HTTP メッセージを送信するように、Smart Call Home を構成できます。HTTP プロキシサーバを構成しない場合、Smart Call Home は、Cisco Transport Gateway (TG) に HTTP メッセージを直接送信します。

HTTP プロキシサーバを設定するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	switch(config)# callhome	Callhome 構成サブモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome)# transport http proxy server ip address	HTTP プロキシ サーバのドメイン ネーム サーバ (DNS) の名前、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスを設定します。 任意でポート番号を設定します。ポート範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトのポート番号は 8080 です。
ステップ 4	switch(config-callhome)# transport http proxy enable	Smart Call Home で、HTTP プロキシサーバ経由ですべての HTTP メッセージを送信できるようにします。 (注) プロキシサーバアドレスが設定された後にだけ、このコマンドを実行できません。
ステップ 5	オプション : switch(config-callhome)# show callhome transport	Smart Call Home に対する転送関係の構成を表示します。 (注) フルテキストの宛先と XML のデフォルト値は 1 MB です。

CSLU は CSSM から切断

製品インスタンス 開始型通信のどちらの方法を実装するかによって異なります。以下のタスクを実行します。

製品インスタンス開始型通信の場合のタスク

CSLU のインストール > CSLU の環境設定 > 製品インスタンスの設定 > [Cisco にすべてダウンロード (Download All for Cisco)] と [Cisco からアップロード (Upload From Cisco)]

ステップ 1 CSLU のインストール

タスクが実行される場所。[[スマート ソフトウェア マネージャ \(Smart Software Manager\)](#)] > [[スマート ライセンシング ユーティリティ \(Smart Licensing Utility\)](#)] から Windows ホスト (ラップトップ、デスクトップ、または仮想マシン (VM) ダウンロード

インストールとセットアップの詳細については、『[Cisco Smart License Utility Quick Start Setup Guide](#)』を参照セットアップください。

ステップ 2 CSLU の環境設定

タスクの実行場所：CSLU

- CSLU の [基本設定 (Preferences)] タブで、[シスコの接続 (Cisco Connectivity)] トグルスイッチをオフにします。フィールドが「Cisco Is Not Available」に切り替わります。
- スマートアカウントとバーチャルアカウントの設定 (CSLU インターフェイス)。
- CSLU での製品開始型製品インスタンスの追加 (CSLU インターフェイス)。

ステップ 3 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

- 製品インスタンス開始型通信のネットワーク到達可能性の確認。
- 転送タイプが **cslu** に設定されていることを確認します。

CSLU がデフォルトの転送タイプです。別のオプションを設定した場合は、グローバル コンフィギュレーションモードで **license smart transport cslu** コマンドを入力します。構成ファイルへの変更を保存します。

```
Device(config)# license smart transport cslu
```

```
Device(config)# exit
```

```
Device# copy running-config startup-config
```

- CSLU の検出方法を指定します (1 つ選択)。

- オプション 1 :

アクションは必要ありません。ネーム サーバは、**cslu-local** のゼロタッチ DNS ディスカバリ用に設定されました。

ここでは、DNS を設定してあり (ネームサーバーの IP アドレスが製品インスタンスで設定されている)、ホスト名 **cslu-local** が CSLU IP アドレスにマッピングされているエントリが DNS サーバーにある場合、それ以上のアクションは不要です。製品インスタンスは、ホスト名 **cslu-local** を自動的に検出します。

- オプション 2 :

アクションは必要ありません。**cslu-local.<domain>** のゼロタッチ DNS ディスカバリ用に設定されたネームサーバーとドメインです。

ここでは、DNS を設定してあり (ネームサーバーの IP アドレスとドメインが製品インスタンスで設定されている)、**cslu-local.<domain>** が CSLU IP アドレスにマッピングされているエントリが DNS サーバーにある場合、それ以上のアクションは不要です。製品インスタンスは、ホスト名 **cslu-local** を自動的に検出します。

- オプション 3 :

CSLU に特定の URL を設定します。

グローバル コンフィギュレーションモードで **license smart url**

csluhttp://<cslu_ip_or_host>:8182/cslu/v1/pi コマンドを入力します。<cslu_ip_or_host> には、CSLU

をインストールした Windows ホストのホスト名や IP アドレスを入力します。8182 はポート番号であり、CSLU が使用する唯一のポート番号です。

```
Device (config)# license smart url cslu http://192.168.0.1:8182/cslu/v1/pi
```

```
Device (config)# exit
```

```
Device# copy running-config startup-config
```

ステップ 4 [Download All for Cisco] と [Upload From Cisco]

タスクの実行場所：CSLU と CSSM

- Download All For Cisco (CSLU インターフェイス)
- CSSM への使用状況データのアップロードと ACK のダウンロード。
- Upload From Cisco (CSLU インターフェイス)

結果：

製品インスタンスは通信を開始すると、ポリシーに従って、スケジュールされた時刻に最初の RUM レポートを自動的に送信します。製品インスタンスがこの情報をいつ送信するかを確認するには、特権 EXEC モードで **show license all** コマンドを入力し、出力で **Next report push:** フィールドの日付を確認します。

CSLU は CSSM から切断されるため、CSLU が製品インスタンスから収集した使用状況データをファイルに保存する必要があります。次に、シスコに接続されているワークステーションからファイルを CSSM にアップロードします。この後、CSSM から ACK をダウンロードします。CSLU がインストールされて製品インスタンスに接続されているワークステーションで、ファイルを CSLU にアップロードします。

ライセンスの使用状況が変更された場合は、[転送タイプ](#)、[URL](#)、および[レポート間隔の設定](#)を参照しレポートへの影響を確認してください。

SSM オンプレミスを介して CSSM に接続

コミュニケーションの製品インスタンスが開始したメソッドを実施するとき、対応する順序のタスクを完了します。



- (注) デバイスが callhome 転送を使用して SLP 前のリリースでオンプレミスに登録されている場合、移行後に転送モードが CSLU に変わります。また、URL は **OnPrem CSLU tenant ID** から製品インスタンスで入力されます。確実に、**copy running-config startup-config** コマンドを使用して構成を保存するようにしてください。

製品インスタンス開始型通信の場合のタスク

SSM オンプレミスのインストール > オンプレミス環境設定 > 製品インスタンスの設定

ステップ1 SSM オンプレミスのインストール

タスクが実行される場所。 [Smart Software Manager](#) からファイルをダウンロードします。

インストールとセットアップのヘルプについては、「[Cisco Smart License Utility クイック スタート セットアップ ガイド](#)」を参照してください。

ステップ2 オンプレミス設定

タスクの実行場所：オンプレミス

[Smart Software Manager オンプレミス ユーザーガイド](#) を参照してください。

ステップ3 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

- a) [製品インスタンス開始型通信のネットワーク到達可能性の確認](#)。
- b) 転送タイプが **cslu** に設定されていることを確認します。

別のオプションを設定した場合は、グローバルコンフィギュレーションモードで **license smart transport cslu** コマンドを入力します。構成ファイルへの変更を保存します。

```
Device(config)# license smart transport cslu
```

```
Device(config)# exit
```

```
Device# copy running-config startup-config
```

- c) SSM オンプレミス URL は、SSU オンプレミス テナント ID から製品インスタンスで入力されます。この構成は、ライセンス スマート URL https://Cisco_SSM_OnPrem/cslu/v1/pi/XYZ-ON-PREM-1 として表示されます。上記の URL の **XYZ-ON-PREM-1** はテナント ID です。
- d) SSM オンプレミスを検出するには：

操作は不要です。ネームサーバーは、**Cisco_SSM_OnPrem** のゼロタッチ DNS ディスカバリ用に設定されました。

ここでは、DNS を設定してあり（ネームサーバーの IP アドレスが製品インスタンスで設定されている）、ホスト名 **Cisco_SSM_OnPrem** が オンプレミス IP アドレスにマッピングされているエントリが DNS サーバーにある場合、それ以上のアクションは不要です。製品インスタンスは、ホスト名 **Cisco_SSM_OnPrem** を自動的に検出します。

結果：

製品インスタンスは通信を開始すると、ポリシーに従って、スケジュールされた時刻に最初の RUM レポートを自動的に送信します。製品インスタンスがこの情報をいつ送信するかを確認するには、特権 EXEC モードで **show license all** コマンドを入力し、出力で **Next report push:** フィールドの日付を確認します。

オンプレミスは、情報を CSSM に転送し、CSSM から返される ACK を製品インスタンスに転送します。

ライセンスの使用状況が変更された場合は、[転送タイプ](#)、[URL](#)、および[レポート間隔の設定](#)を参照しレポートへの影響を確認してください。

SSM オンプレミスは CSSM から切断

製品インスタンス開始型通信のどちらの方法を実装するかによって異なります。以下のタスクを実行します。



- (注) デバイスがプレ SLP リリースで SSM オンプレミスに登録されている場合、移行後に転送モードが CSLU に変更されます。また、URL は **OnPrem CSLU tenant ID** から製品インスタンスで入力されます。確実に、`copy running-config startup-config` コマンドを使用して構成を保存するようにしてください。

製品インスタンス開始型通信の場合のタスク

SSM オンプレミスのインストール > オンプレミス環境設定 > 製品インスタンスの設定

ステップ 1 SSM オンプレミスのインストール

タスクが実行される場所: [Smart Software Manager](#) からファイルをダウンロードします。

インストールとセットアップの詳細については、『[Cisco Smart License Utility Quick Start Setup Guide](#)』を参照セットアップください。

ステップ 2 オンプレミス設定

タスクの実行場所: オンプレミス

『[Smart Software Manager オンプレミス ユーザーガイド](#)』を参照してください。

ステップ 3 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所: 製品インスタンス

- 製品インスタンス開始型通信のネットワーク到達可能性の確認。
- 転送タイプが `cslu` に設定されていることを確認します。

別のオプションを設定した場合は、グローバルコンフィギュレーションモードで `license smart transport cslu` コマンドを入力します。構成ファイルへの変更を保存します。

```
Device(config)# license smart transport cslu
```

```
Device(config)# exit
```

```
Device# copy running-config startup-config
```

- c) SSM オンプレミス URL は、SSM オンプレミス テナント ID から製品インスタンスで入力されます。この設定は、ライセンス スマート URL `https://Cisco_SSM_OnPrem/cslu/v1/pi/XYZ-ON-PREM-1` として表示されます。

上記の URL の **XYZ-ON-PREM-1** はテナント ID です。

- d) SSM オンプレミスを検出するには：

操作は不要です。ネームサーバーは、**Cisco_SSM_OnPrem** のゼロタッチ DNS ディスカバリ用に設定されました。

ここでは、DNS を設定してあり（ネームサーバーの IP アドレスが製品インスタンスで設定されている）、ホスト名 **Cisco_SSM_OnPrem** が オンプレミス IP アドレスにマッピングされているエントリが DNS サーバーにある場合、それ以上のアクションは不要です。製品インスタンスは、ホスト名 **Cisco_SSM_OnPrem** を自動的に検出します。

ステップ 4 [Download All for Cisco] と [Upload From Cisco]

タスクの実行場所：オンプレミスと CSSM

- a) SSM オンプレミス ライセンシング ワークスペース GUI にログインします。
1. [ポリシーを使用したSL] タブをクリックします。
 2. [すべてをエクスポート/インポート] ドロップダウンをクリックします。
 3. [Export Usage Cisco] を選択して、ファイルをアップロードおよび保存します。
- b) CSSM への使用状況データのアップロードと ACK のダウンロード。
- c) SSM オンプレミス ライセンシング ワークスペース GUI にログインします。
1. [ポリシーを使用したSL] タブをクリックします。
 2. [すべてをエクスポート/インポート] ドロップダウンをクリックします。
 3. CSSM からダウンロードされた ACK をアップロードするには、[Import From Cisco] を選択します。

結果：

製品インスタンスは通信を開始すると、ポリシーに従って、スケジュールされた時刻に最初の RUM レポートを自動的に送信します。製品インスタンスがこの情報をいつ送信するかを確認するには、特権 EXEC モードで **show license all** コマンドを入力し、出力で `Next report push:` フィールドの日付を確認します。

オンプレミスは CSSM から切断されるため、オンプレミスが製品インスタンスから収集した使用状況データをファイルに保存する必要があります。次に、シスコに接続されているワークステーションからファイルを CSSM にアップロードします。その後、CSSM から ACK をダウンロードします。オンプレミスがインストールされて製品インスタンスに接続されているワークステーションで、ファイルをオンプレミスにアップロードします。

ライセンスの使用状況が変更された場合は、[転送タイプ](#)、[URL](#)、および[レポート間隔の設定](#)を参照しレポートへの影響を確認してください。

CSSM への接続なし、CSLU なし

他のコンポーネントへの接続を設定する必要がないため、トポロジの設定に必要なタスクのリストは短くなります。このトポロジを実装した後に必要な使用状況レポートを作成する方法については、ワークフローの最後にある「結果」セクションを参照してください。

製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所。製品インスタンスの設定転送タイプを **off** にします。

グローバル コンフィギュレーション モードで **license smart transport off** コマンドを入力します。構成ファイルへの変更を保存します。

```
Device(config)# license smart transport off
Device(config)# exit
Device# copy running-config startup-config
```

結果：

製品インスタンスからのすべての通信を無効にします。ライセンスの使用状況をレポートするには、RUM レポートを（製品インスタンスの）ファイルに保存してから、CSSM にアップロード、する必要があります（インターネットとシスコに接続されているワークステーションからアップロード）。

1. RUM レポートの生成と保存

license smart save usage コマンドは特権 EXEC モードで入力します。次の例では、すべての RUM レポートが **all_rum.txt** ファイルで製品インスタンスのフラッシュ メモリに保存されます。この例では、ファイルはまずブートフラッシュに保存され、次に TFTP の場所にコピーされます。

```
Device# license smart save usage all bootflash:all_rum.txt
Device# copy bootflash:all_rum.txt tftp://10.8.0.6/all_rum.txt
```



(注) RUM レポートは、アップロードするデバイスのライセンス トランザクションをキャプチャします。グリーンフィールドデバイスでは、何もレポートされないため、空で生成されません。また、ライセンス トランザクションがなく、ユーザがレポートを保存しようとする時、「**Failure : save status : The requested item was not found**」エラーが表示されます。ライセンス機能の有効化などのいくつかのライセンス トランザクションの後、レポートが生成され、オンライン/オフライン アップロード用に生成されます。

2. 使用状況データを CSSM にアップロード：[CSSM への使用状況データのアップロードと ACK のダウンロード](#)
3. ACK を製品インスタンスにインストール：[製品インスタンスへのファイルのインストール](#)

ライセンスの使用状況が変更された場合は、[転送タイプ](#)、[URL](#)、および[レポート間隔の設定](#)を参照しレポートへの影響を確認してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。